



1 学期を振り返って

校長 濱 中 昌 志

1 学期、始業式。3 年生に対しては、義務教育最終年度として、また、最上級生として、学校行事や生徒会活動、部活動など、学校の中心となって積極的に取り組んでほしいということ。

2 年生に対しては、中堅学年として思う存分、自分を磨き、充実させる時であること。3 年生を助けながら積極的に活動し、中学校生活に慣れていない1 年生を助けてあげてほしいということ。

そして、新入生に対しては、先輩を手本として中学校生活を送ること。入学式の式辞でもウサギとカメの話を引用して、目標をしっかり持ってほしいこと。等々、生徒たちに約束をお願いをして、令和6年度の1 学期をスタートしました。

加えて、コロナの規制や制限の緩和が本格的にすすむ中、改めて、優しさに磨きをかけ、愛宕中を、この地域を、北海道を、日本を、世界を、優しさあふれる素敵な場所に変えるため、「世界一」の優しい学校を目指すことを誓いました。

先行きが不透明な時代に生きる私たちですが、世界を変えるという壮大な目的に向かって、全校生徒が一緒に努力をはじめてくれていると感じています。

また、世界一の優しい学校づくりに向けて、校訓である「やる気・本気・根気」をキーワードにしながら、素晴らしい学校、そして新たな伝統を創るため、生徒一人一人がその担い手であることを自覚すると同時に、愛宕中生としての「誇り」を持って自分たちの手で作っていくのだという「自律」の精神も大切に、それぞれの実践に取り組んでおります。

そのような中、本日、無事に1 学期の終業式を迎えることが出来ました。式辞では「愛宕中生としての誇り」についてふれ、「誇れるもの」を持っているのか? 「誇り」ある生き方をしているのか? などを問いかけてみました。私が思う「誇り」は、「自信や信念」に裏付けされたものであり、揺るがない「自信や信念」と「行動」の成果ではないかということを伝えていきます。

「この夏休み、これだけはやりきる」という姿勢。この「姿勢」で人生が変わる。生き方が変わるかもしれないということ。生徒一人一人が考える「誇り」ある行動をしてほしい。自分が決めた「目標」に向かって行動してほしい。自分のやる気と行動で人生が変わることと信じてほしい。

「目標」を達成するための「体力」や「気力」が充実している、今、この時を大切にしてほしい。

そして、愛宕中生としての新たな「誇り」を改めて携えて、2 学期の始業式に元気に登校してほしい。

結びに、生徒の頑張りに対していつも「誇り」を感じていることを伝え、締めくくりました。

この頑張りには、地域の皆様はもとより、保護者の皆様の支えがあつてのものです。

心より感謝を申し上げます。そして、2 学期もよろしくお願いいたします。

愛宕中学校父母と先生の会主催 「命の授業」講演会

今年度のPTA活動として、腰塚勇人氏を講師にお迎えし、「命の授業」講演会を開催いたしました。当日は、全校生徒に加え、愛宕東小学校の6 年生とPTA役員、愛宕小学校のPTA役員、そして本校の保護者の皆様と、500 名を超える参加者となりました。

スキー中の大転倒によって頸椎骨折という大ケガをしてしまった腰塚さん。奇跡的に命はとりとめたものの全身が動かない深刻な麻痺状態になり、絶望に心は深く沈みましたが、妻や両親、同僚の先生や生徒などの人達の応援と励ましを受けて、心も再び動き始め、奇跡的に回復。4ヶ月の入院・リハビリ後、職場復帰を果たしました。現在は、障がいを抱えながらも、感謝と共に生きようになり、この経験の一つ一つのプロセスを受け止め「5つの誓い」へたどり着いたのと同時に、命の大切さ、生きていることの素晴らしさ、家族や仲間の大切さなど、普段の生活の中で当たり前と感じ、忘れかけている大切な幸せについて、私たち一人一人が、誰かを照らす存在であることを、講演を通じて伝えていただきました。